

## 副詞マダのアノテーションとそのガイドライン

井上智也 (九州大学文学部)

上山あゆみ (九州大学大学院人文科学研究院)

### 概要

マダという語は、さまざまな用法を持っている。このようなマダのさまざまな用法について、分類ガイドラインを作成した。実際にガイドラインに沿って『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)によってアノテーションを試み、カッパ値を計算することで、ある程度信頼性のあるガイドラインが作成できたと結論づけた。

### 1. はじめに

マダという語は、否定形と呼応し動作の未完了を表したり、その意味を加えて状態の変化を表したりする用法があるとされている。しかしながら、実際の用法は多岐にわたっている。そのため、コーパスにおける有用性を高めるために、マダの用法を適切に区別する必要があることは明らかである。そして適切な用法を提案し、アノテーションを試みて、そのカッパ値のブレを抑えることがその有用性を示すために効果的である。そのためにはまず分類のガイドラインを作成することが必要である。本発表では、マダの様々な用法について分類ガイドラインを作成するにあたり、どのような問題が発生したのかについて述べ、今回作成した分類ガイドラインに基づいて行われたアノテーションの結果を示していく。

### 2. マダの分類

まず、私たちの班で考案した分類ガイドラインを示し、それぞれの用法に関する説明から行っていく。

a	未実現	否定形と共起し、発話時に想定されている時点で起こると予想される単一事象が起こっていないことを表す。
---	-----	---

b	未完了	否定形と共起し、発話時に想定されている時点ですでに起こっている事象が完全な移行前であることを表す。
c	未経験	否定形と共起し、発話時に想定されている時点である事象の経験がないことを表す。「～シタコトガナイ」と共起する。
d	継続	既に始まっていた動作・状態が、発話時に想定されている時点でも継続していることを表す。
e	比較	複数の事象を比較し、十分ではないが他に比べればよいほうであることを表す。「マダシモ」の形をとることもある。
f	強調	意味を強調する。省略しても文意が通る。「マダマダ」の形をとることもある。
g	残存	「ある」や「残っている」などと共起し、存在や残量を表す。
h	時間の経過	時間に関する語を伴って、時間や日数の変化量が予想よりも少ないことを表す。
i	未熟	ある状態が、発話時において予想される点に至っていないことを表す。成長の程度を表す言葉や数量詞などが後続する。

### 3. 代表的な例文と問題となりうる点

#### 3.1. 「a: 未実現」について

「a: 未実現」の代表的な例文は、次に示す通りである。

- (1) ドラマはまだ始まってないよ。 [今井 2011:260]

(1)のように、否定形と共起し、発話時に想定されている時点で起こると予想される単一事象が起こっていないことを表す場合は、「a: 未実現」に分類される。

#### 3.2. 「b: 未完了」について

「b: 未完了」の代表的な例文は、次に示す通りである。

- (2) 戦争はまだ終わってない。  
[池田 1999:23 (24)]

(2)のように、否定形と共起し、発話時に想定されている時点ですでに起こっている事象が完全な移行前にあることを表す場合は、「b: 未完了」に分類される。

また、a と b の用法に関してはどちらも否定形と呼応している点と同じであり、形式的な違いで分類することが不可能となっている。そのため、分類を個人の判断に委ねることを避けられず、カップパ値のぶれを生じさせるという問題が発生している。

#### 3.3. 「c: 未経験」について

「c: 未経験」の代表的な例文は、次に示す通りである。

- (3) 納豆はまだ食べたことがありません。  
[今井 2011:261]

(3)のように、否定形と共起し、発話時に想定されている時点である事象の経験がないことを表し、「～シタコトガナイ」と共起する場合は、「c: 未経験」に分類される。

#### 3.4. 「d: 継続」について

「d: 継続」の代表的な例文は、次に示す通りである。

- (4) まだ雪が降っている。 [今井 2011:261]

(4)のように、既に始まっていた動作・状態が、発話時に想定されている時点でも継続していることを表す場合、「d: 継続」に分類される。

#### 3.5. 「e: 比較」について

「e: 比較」の代表的な例文は、次に示す通りである。

- (5) 私の部屋は散らかっているけど、弟の部屋よりはまだきれいだ。  
[今井 2011:262]

(5)のように複数の事象を比較し、十分ではないが他に比べればよいほうであることを表す場合、「e: 比較」に分類される。「マダシモ」の形をとることもある。

#### 3.6. 「f: 強調」について

「f: 強調」の代表的な例文は、次に示す通りである。

- (6) 一流のシェフになるまで、まだまだ経験が必要だ。  
[今井 2011:262]

(6)のように省略しても文意が通る場合、「f: 強調」に分類する。「マダマダ」の形をとることもある。

#### 3.7. 「g: 残存」について

「g: 残存」の代表的な例文は、次に示す通りである。

- (7) トンネル完成まで、まだ 3km 残っている。  
[今井 2011:262]

(7)のように、「ある」や「残っている」などと共起し、存在や残量を表す場合、「g: 残存」に分類する。

### 3.8. 「h: 時間の経過」について

「h: 時間の経過」の代表的な例文は、次に示すとおりである。

(8) 父が死んでまだ一年だ。 [松村 20:22 (59)]

(8)のように、時間に関する語を伴って、時間や日数の変化量が予想よりも少ないことを表す場合には、「h: 時間の経過」に分類される。

### 3.9. 「i: 未熟」について

「i: 未熟」の代表的な例文は次の通りである。

(9)まだ中学三年の男の子と高校二年の女の子がいる。[BCCWJ より]

(9)のように、ある状態が発話時において予想される点に至っていないことを表し、成長の程度を表す言葉や数量詞などが後続する場合には、「i: 未熟」に分類される。

この分類ガイドラインに基づく「まだあと何度かは会えると思っていた」という文も数量詞が後続しているため未熟と分類されてしまうが、実際にはこのマダは未熟を表しているとは考えられないため、この用法に関しては今後修正を加える必要があると言えるだろう。

## 4. アノテーション結果

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)から、マダを含んだ例文 500 件を抽出し、上記の分類ガイドラインにしたがって、実際にアノテーションを行った。

九州大学文学部の分類に関与していない学生 2 人がそれぞれアノテーションを行い、その結果からカッパ値を計算したところ、約 0.67 となった。アノテータ間でぶれの少ない、ある程度信頼性のあるガイドラインが作成できたことになる。今後、ずれの見られるところを中心に、更に検討を重ねていきたい。

## 参考文献

- 今井新悟 (編) (2011) 『日本語多義語学 習辞典 形容詞・副詞編』 pp.260-262 東京:株式会社アルク
- 池田英喜 (1999) 「「もう」と「まだ」: 状態の移行を前提とする 2 つの副詞」 『阪大日本語研究』 11, pp.19-35.
- 松村明 (監) (2012) 『大辞泉 第二版』 小学館
- 皆島博 (2015) 「日英多義語の認知意味論 的分析: 「マダ」と“still”」 『福井大学教育地域科学部紀要』 5, pp.76-90.
- 北原保雄 (2010) 『明鏡国語辞典 第二版』 大修館書店
- 飛田良文・浅田秀子 (1994) 『現代副詞用法辞典』 pp.497-499 東京:東京堂出版